比布町

深瀬　哲也

1.　概要と歴史

1.1　町名の由来

町名はアイヌ語の「ピピ」（石の多いところ）あるいは「ピプ」（沼の多いところ）からついたとされている。昔は湿地帯が多く、石狩川の川底には石が多かった事実がある。漢字は「比布」以外にも「必布」「必富」「秘富」という文字が用いられていた。いずれもアイヌ語を音訳したものであるが、なぜ「比布」という漢字に至ったかという経緯は明らかではない。また、比布ウペッツ川の「ウッペツ」は「ウッナイ」と同じ「助・川」の意で、湿原を流れてきて、直接本川には入らず、他の川の横腹に助骨のように横から注いでいることを指している。

1.2　歴史

1895 年に滋賀、香川、愛媛から比布原野に入植する。そして 1906 年に上川郡鷹栖村（現鷹栖町）から分村し二級町村制を通じて上川郡比布村となる。置村された比布村は鷹栖村と山脈で境界をもつこととなり、その戸数は 611 戸 2,971 人をもって創基したが、山脈の境界があいまいであったために紛議を生ずるという要因をつくってしまった。第 2 次世界大戦では、比布村も米軍機の襲来にあうのだが死者はでなかった。滋賀、香川、愛媛から団体が比布原野に入植して開墾していったのだが、現在ではそれらの地域と友好関係にある。1962 年に町制を施行し比布町となるが、比布町の歴史は、打ち続く試練と困難を不屈の闘魂をもって克服し、次代を切り開き未来をつくるという先駆者達の、それはかけがえのない厳しくも尊い道のりだったのである。

1.3　自然

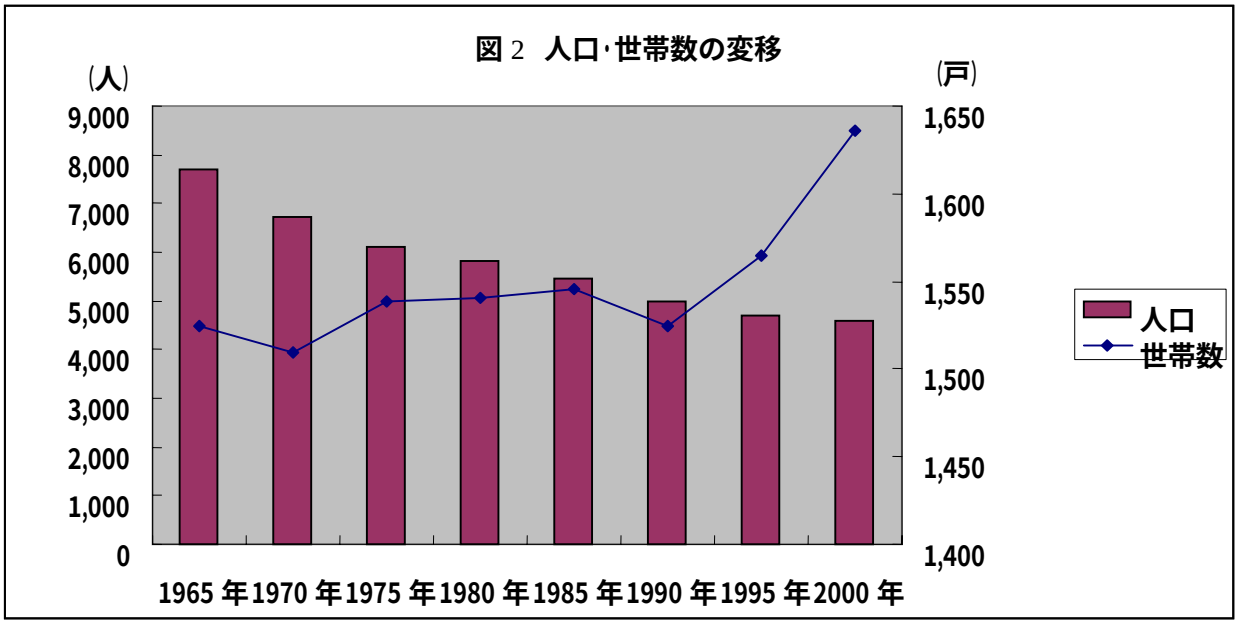
比布大滝

石狩川と比布川の合流点付近にあった滝で、通称「ピリカ飛瀑」と呼ばれていた。ピップ民話「屯田兵の恋」の舞台になった滝と云われているがすでに滝は崩壊、幻の滝になってしまったが石狩川の名釣り場として通う人は今も多い。

図 1　比布大滝

出典：比布町役場 HP

1.4　人口・世帯数



国勢調査を基にグラフ化したものであるが、グラフにして明らかに分かることは人口が減り世帯数は増えるという核家族化が比布町において顕著であるということである。高度経済成長に入ると工業をはじめとする第 2,3 次産業の飛躍的な発展に伴って、農村地帯から都市圏への人口流出が続き、過疎現象がおこってしまったと読み取れる。また町内においても農家地域の人口は減り、逆に市街地の人口は微増しているという。近年を見てみると、

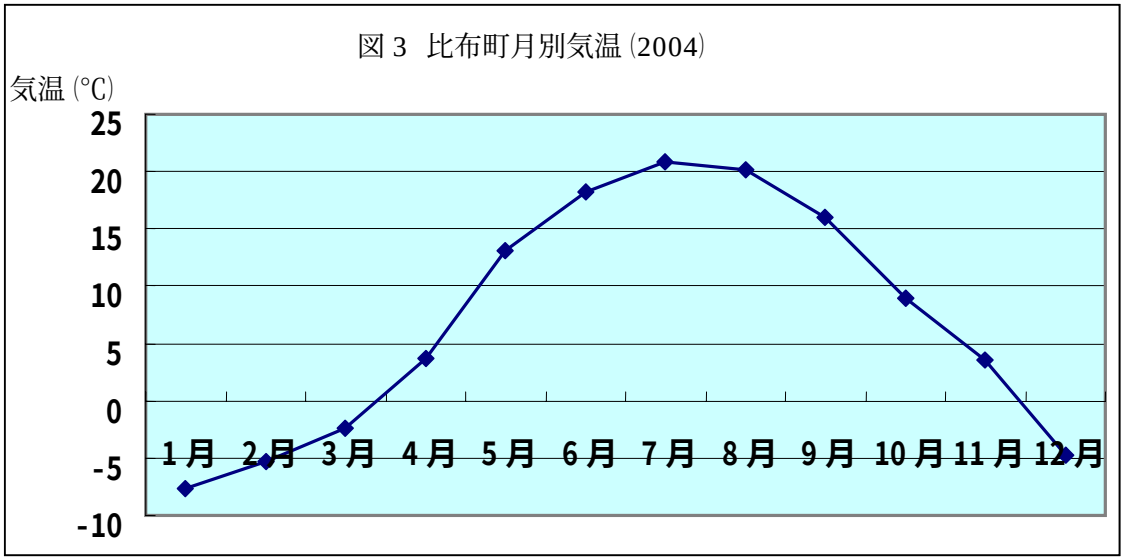
町営による単身者住宅の建設や特別養護老人施設の開設などによる社会動態が減少率の解消に貢献している。

1.5　気象

亜寒帯に属しアジア大陸の東端地域にある北海道は、海面の影響を強く受けることから「日本海面区」「オホーツク海面区」「太平洋海面区」の三大気候区分に分けられており、比布町はその地形上（盆地）から内陸的気候を帯びて寒暖の差が激しい。町内では 7 月中旬から 8 月上旬にかけて摂氏 30℃を超える日が続くことがあり、また、1 月から 2 月にかけては極寒の日が続き、まれにマイナス 25℃から、さらに下がることもある。寒暖の差は実に 50℃にもなるのである。

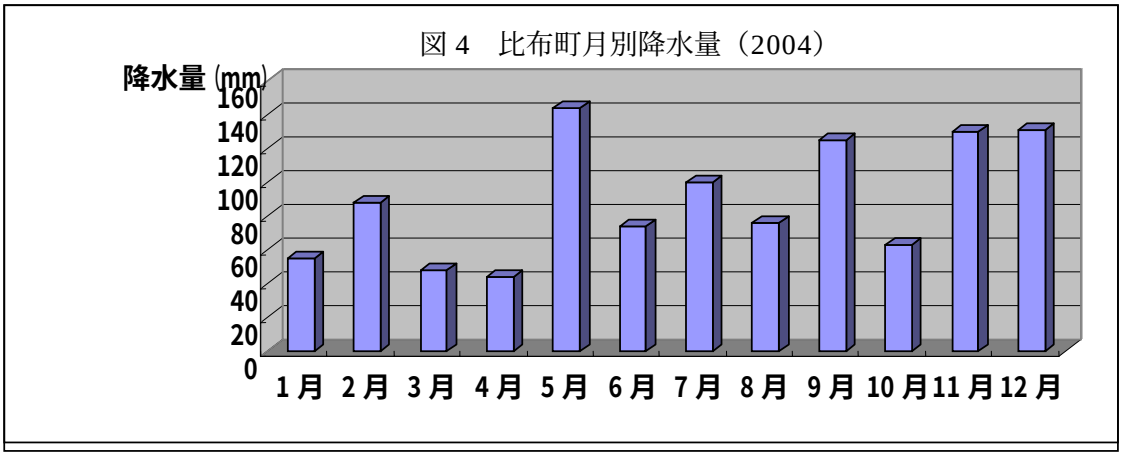
風は一般的に西風が最も多く風速も 4～5 月に強く、乾燥した風が吹き、8～9 月には最も風が弱いのが特徴である。そして風による家屋や農作物の被害は極めて小さい。

図 3　比布町月別気温（2004）



年間の降水量は 1,000mm 程度である。4 月下旬から 5 月下旬にかけては、それほど雨量も多くないが、6 月上旬から次第に量を増し 8 月ごろから比較的多くなるのが平常であったが、近年は異常気象のためか降水量が 5 月に多くなるなど変化してきている。

図 4　比布町月別降水量（2004）



1.6　位置と地図

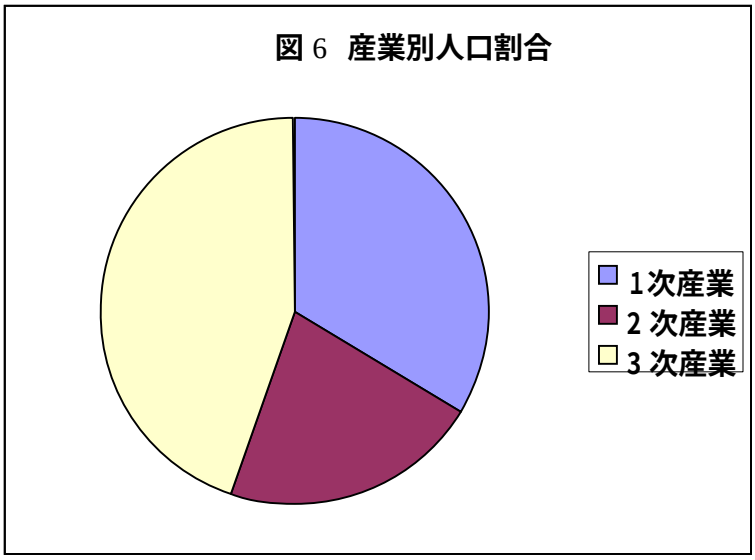
比布町は、北海道の内陸上川支庁管内のほぼ中央、上川盆地の北部にあって、大雪の表連峰を東西に仰ぐ位置にある。南東部は石狩川をもって当麻町と境し、南西部は旭川市と隣接、北東部は山林地帯を介して愛別町・朝日町・士別市・和寒町とそれぞれ隣接している。国道 39 号と 40 号が縦横断し、また、道央自動車道と旭川紋別自動車道をつなぐ比布ジャンクションと比布北インターチェンジも備え、交通の要衝として道路網が整備されている。旭川空港からも車で約 45 分のところに位置し、交通アクセスは充実している。なお役所の所在地は東経 142 度 28 分 53 秒、北緯 43 度 53 分 21 秒に位置している。

図 5　比布町の位置

出典：上川支庁 HP

2　産業・経済

2.1　産業別人口割合



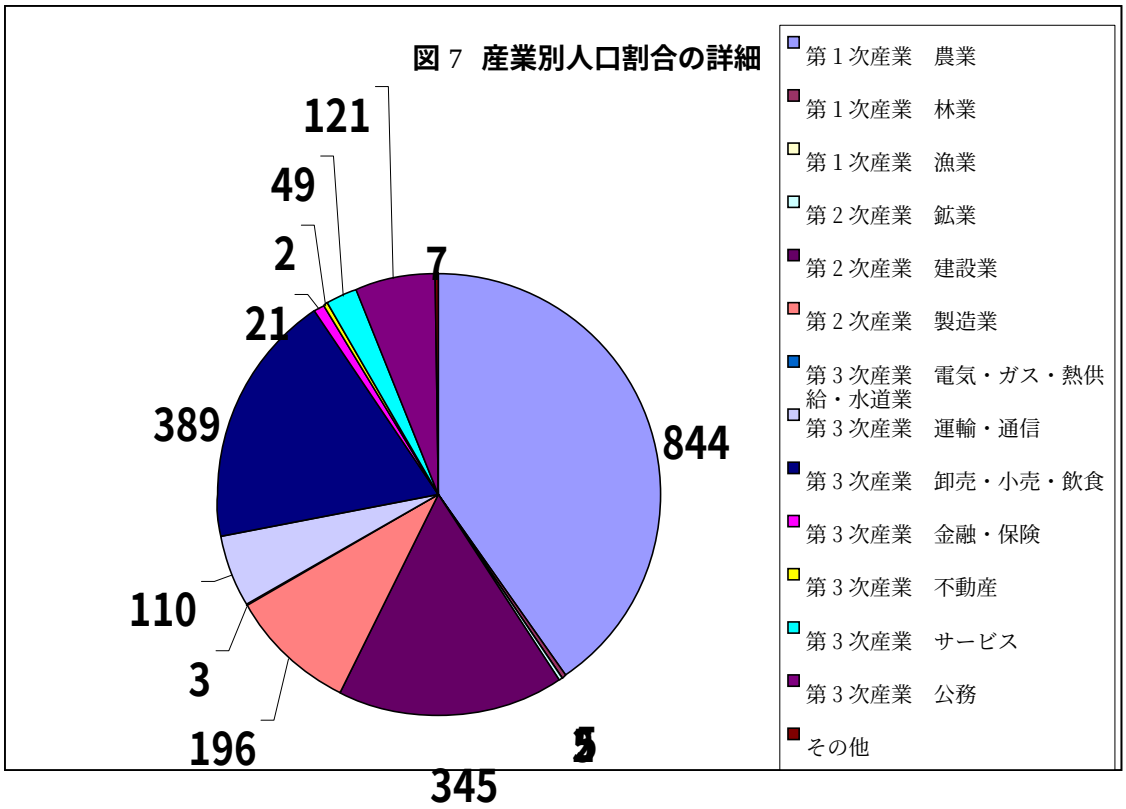


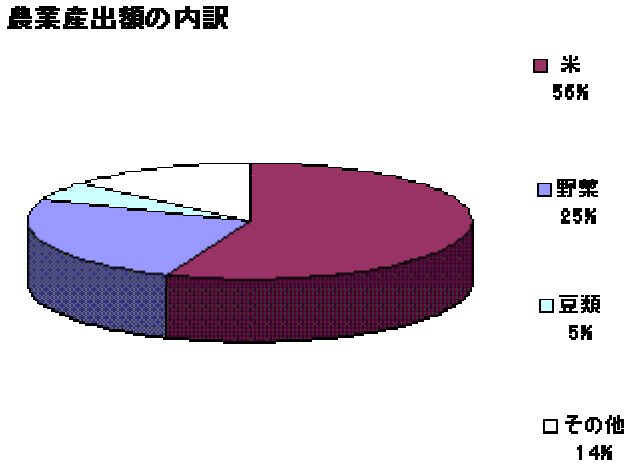
図 6,7 から読み取れることは比布町の経済を支えているのは農業であるということだ。一面に田園風景が広がり、またイチゴが有名なことで知られているくらいである。しかし前に人口統計も見たように比布町の過疎化が進む中、第 1 次産業が大きく占めているのは

厳しい現状である。農業の後継者をどう育てるのか、今後の重要な課題となってくる点であるはずだ。それでも比布の農業従事者が多いのはイチゴが有名になりブランド化され安定した需要があることが大きな要因であるといえる。町をあげてのイチゴ祭りや旭川への宣伝など非常に力緒いれている。それはハウスイチゴの研究に始まり多くの試練や研究を重ねた結果ブランド化に成功したのであろう。

また、詳細から第二次産業でも特に建設業の割合が多いことがわかる。その理由は、核家族化によるものである。この問題は全国各地に共通するものであるが比布町は大きなマンションなどほとんどない。土地が安いという背景も踏まえて、個人の住宅の新築になるのである。最近では、より良質な住宅を求め、さらに住宅団地分譲などによる住宅建築が進んでいる。旭川市の通勤圏にあって田園に囲まれた緑豊かな、ゆとりのある郊外住宅地としての魅力に着目し、町がこうした環境を生かしながら定住対策の住宅団地の開発を進めていることも大きな要因であるといえる。

2.2　農業

図 8　農業生産額の内訳



比布町の基幹産業である農業生産は、水稲が中心である。戦後増加をたどってきた水稲作付面積は生産調整の始まった 1970 年には激減した。近年、営農技術の向上により、稲作の生産は安定方向にあるが、気候条件によってその収穫量に大きな影響を与えている。特に、自主米市場が開設されたことにより、生産される米は流通段階から消費者までの評価を得るため、良味・良質米の生産は当然とされ産地間競争に勝てる取り組みがいっそう求められる時代となっている。そこで 1992 年産米と 1995 年産米の出荷の全量が一等米となったことは大きな意味をもつといえる。

図 9　ライスセンター

出典：JA ぴっぷ HP

ライスセンターは昭和 44 年近代的な農業の推進に大型コンバインの導入と共に共同乾燥施設を建てた。近年では米のバラ出荷などの物流改善がされるなか、1997 年フレコン設備を導入して良食味で安心できるお米を消費者に届けることのできる施設である。

図 10　農業研修センター

出典：JA ぴっぷ HP

農業研修センターは農機具を大切に利用しようと自主点検整備推進に昭和 55 年にオープンし。組合員自ら農協機械を整備修理するために、ガス溶接・アーク溶接などの研修も行っている。

以下に比布でできた米を使ってできた特産品（必富美人）を載せておく。

図 11　特産品（必富美人）

出典：比布町役場 HP

2.3　林業

比布町の樹種は、人工林にはカラマツ・トドマツ・トウヒ・シラカバが、天然林にはシラカバなど広葉樹が広く分布している。山林所有者は 1980 年ころから年々減少しているのだが、そのほとんどは不動産業者への売却や、非農家への譲渡などによるものと思われる。一方、林業生産の基盤となる林道網は、国有林に 3 路線 8,2km、民有林の普通林道 5,68km、作業道 32,2km が開設されており、1996 年に新たに普通林道 2,5km が開設された。林業生産物の動向については、生産素材の大半は道森連や近郊の原木市場に出荷されているが、林業・木材産業を取り巻く情勢は厳しく、素材生産量の停滞が続いている。なお、町内の木材関連工場で割り箸、焼丸太などを加工している。

2.4　商工業

比布町を取り巻く環境は、町内人口の減少、大型店の旭川市郊外への進出、モータリゼーションの進展によるロードサイドショップの進出、通販販売の増加、ダンピングの激化、消費ニーズの多様化など目まぐるしく変化している。大型店にしても地域１番店を目指している現況にある。町内の商工業はこの厳しい状況をふまえて対応する体質が望まれるであろう。1991 年に 30 周年を迎えた比布町商工会は、「町内の商業は、地域の身近なものとして大きなウエートをしめており、また日々の消費活動を直接支える存在であり、その活性化を推進することは地域経済・社会の振興に結びつくばかりでなく、町内の生活の豊かさの実現を図るうえからも重要な課題で、町の顔である商店街の生き生きした町づくりは不可欠なもの」との認識のものに諸活動が進められている。

3.　観光

3.1　ストロベリーフェスタ In ぴっぷ

1990 年まで開催されてきた「ぴっぷ夏祭り」をさらに発展拡大し、あわせて名産ぴっぷイチゴや地元農畜産物を宣伝し、町外から多数の観光客を誘致しようと計画され始まったもの。場内では、ぴっぷイチゴ・イチゴジャム農産物の即売・焼肉・ビールなどの売店・抽選会などがあり、特設ステージも設けられタレントの野外ライブが行われる。

図 12　比布のイチゴ

出典：比布町役場 HP

3.2　ひまわり巨大迷路

ヒマワリが静かなブームとなり始めた 1988 年に、油用ヒマワリを作付けしたところ、町内外はもとより道外の観光客にも知れわたり大盛況となった。そこでヒマワリによる観光客の招致策を考えた末に、ヒマワリ畑に迷路を作って家族連れで楽しんでもらおうと、1.7ha の畑に 90,000 本のヒマワリを作付けし、巨大迷路を作った。入園者数が開園当初より減少しているのだが、ヒマワリは連作が不適の作物であることも大きく影響考えられる。

図 13,14　ひまわり巨大迷路

出典：比布町役場 HP

3.3　ぴっぷスキー場

北海道の屋根、大雪山連峰をバックに広大な上川盆地を一望できる、道北一の広大なゲレンデに多彩なバリエーションの 10 コースが整備され、初上級者までがスキーの醍醐味を充分に満喫できる。ファミリーコースは、平均斜度 13 度で家族そろってロングランが楽しめる。ダイナミック、ダイヤモンドコースは上部から急斜面で手応え充分。ストロベリーコースは 2.200m の超ロングランでスノーボーダーに人気がある。SAJ 公認の準指導員検定会場として知られている。

図 15　ぴっぷスキー場風景

出典：ぴっぷスキー場 HP

◎出典

ぴっぷスキー場 HP
http://town.pippu.hokkaido.jp/ski/top.html
上川支庁 HP
http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/move/tokei/toukei/data.htm
北海道農政事務所　旭川統計・情報センターHP
http://www.hokkaido.info.maff.go.jp/center/asahikawa/index.html
比布町役場 HP
http://www.town.pippu.hokkaido.jp
JA ぴっぷ
http://www.ja-pippu.or.jp/